

末松氏 組織の力

県議フル回転 公明票支えに

終始、堅実な戦いを進めてきた自民現職の末松信介氏(54)が、トップ当選で議席を守った。

午後8時50分、神戸も相次ぎ、背水の陣で臨み、市中央区の事務所にも松氏が現れると、歩道にまであふれた支持者らから大きな歓声が上がった。

「とにかく勝ちたかった。ここで負けたら、自

民党に明日はなかった。激戦で黒く日焼けした顔で喜びをかみしめた末松氏。前回の約79万票には届かなかったが、公明の協力にも後押しされ、着実に票を積み上げた。

昨年の衆院選で自民は大敗。兵庫でも小選挙区で1勝9敗、比例復活も1人にとどまった。12小選挙区の半数で支部長が不在になるなど組織の立て直しは困難を極めた。政権交代後、中央では所属議員の離党や新党結成

かつて連立政権を組んだ公明の組織票だった。公明は推薦こそ見送ったものの、比例票のかさ上げや次の衆院選を見据え、一部の地域で「選挙区は末松、比例は公明」の相互協力が成立した。末松氏の当選が確実になった後、陣営幹部は「長年の信頼関係、人間関係に基

づいて取り組んでいたという結果」と話した。「もう一度、地域から党を立て直し、古い体質と決別する。統一地方選や衆院選も控えている。この勢いで必ずや政権奪還を果たす」。末松氏は力強く決意を述べ、こぶしを突き上げた。

(木村信行、岡西篤志)

再選を果たし、支持者から贈られた花束を手に喜ぶ末松信介氏(11日午後9時、神戸市中央区中山手通5) (撮影・大山伸一郎)

